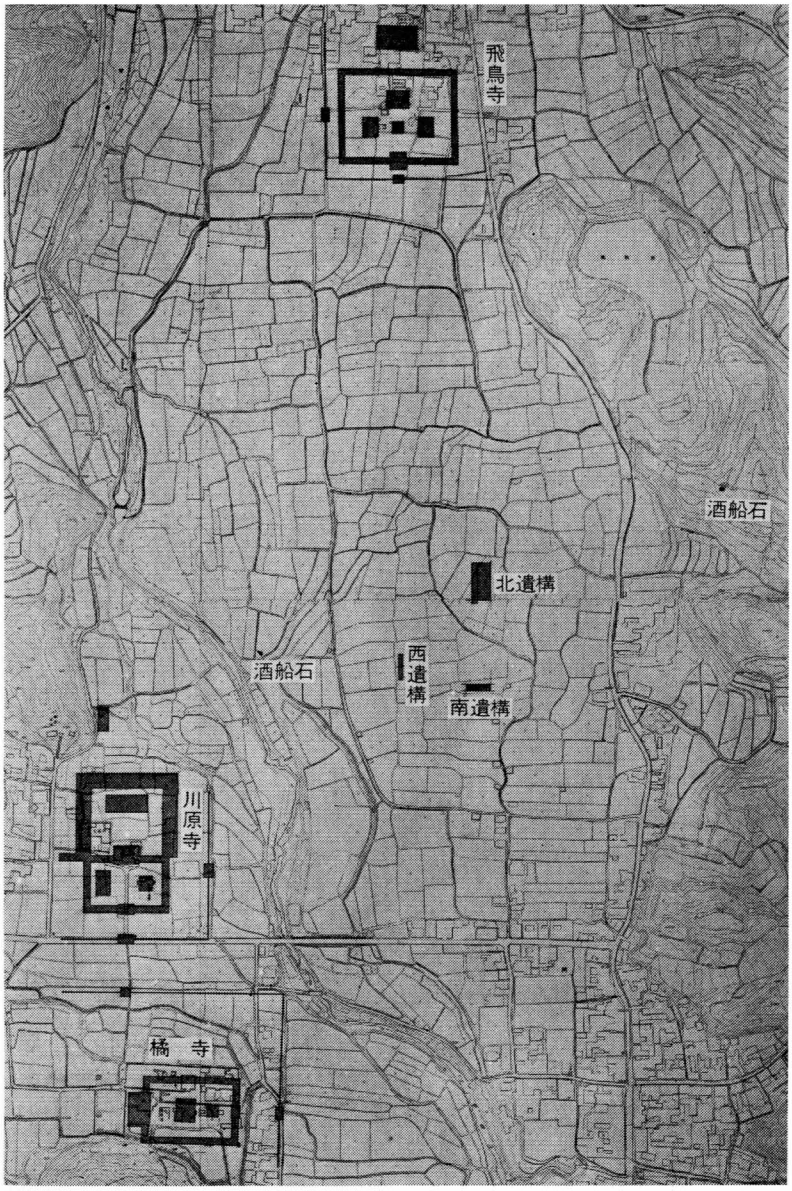
飛鳥板蓋宮伝承地発掘調査概要

建造物研究室・建築
歴史研究室・考古



第1図　飛鳥板蓋宮伝承地附近地形図

この調査は現在進行中の大和平野導水路新設工事にともなって、その予定線上の史跡を事前に調査しようとする計画の一部として実施したものである。予定線は、先に同計画のもとに調査した川原寺（高市郡明日香村大字川原）の南を東に進み、飛鳥川を渡って明日香村大字岡の飛鳥川東岸地域にはいる。この東岸地域は、東西と南を飛鳥川の曲流と丘陵で限られ、北に一段低く飛鳥寺を望む平坦な台地である。この附近は飛鳥板蓋宮の故地

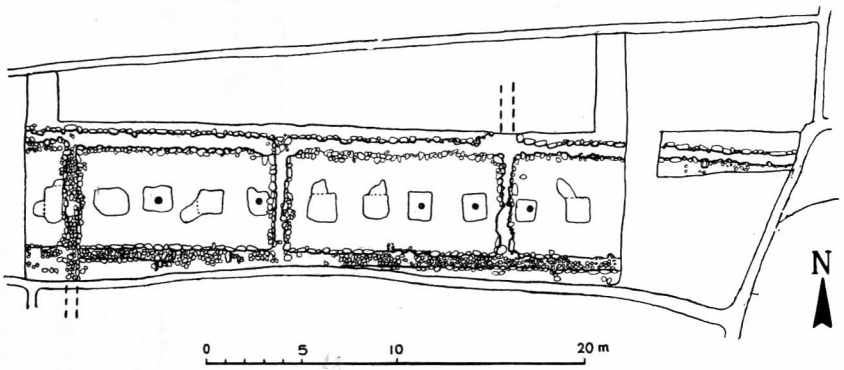
と推定されており、また一帯の水田下には玉石敷の遺構が相当広範囲にわたつて存在するといわれていた。導水路予定地にあたるこれら遺構の性格を究明するために、昭和34年4月13日から5月31日にかけて発掘調査をおこなつた。その結果の概略をここに報告する。

一　発見遺構

A　南遺構

この遺構は、西の飛鳥川と東の丘陵との中央附近小字仏田（ホトケダ）とよばれる水田下に発見されたもので、飛鳥川東岸をへだたること約200m、通称立神（タテガミ）塚なる小さな塚のすぐ東にあたっている。遺構は、約5.5mの間隔をおいて東西に走る玉石積の2条の溝で南北両側を限られ、その中央に1列の掘立柱が並んだ建物跡である。この建物は、東西約10.5mごとに溝で区切られ、この溝でかこまれた1区画に中央柱列が4本づつおさまつたものが1単位となり、それが東西に連続して構成されているらしい。今回の調査ではその両端を確かめることはできなかつたが、約100m以上連なつていることを知つた。この遺構がどの様な性質の建物の跡かという点については、この程度の調査から結論を求めるのが無理であろう。東西の柱間3間の建物が連立して全体として廊の如き

第2図　南　遺　構　全　景



第3図　南　遺　構　実　測　図

形態をなしているが、各単位ごとのまとまりもありそうである。しかし、寺院の僧房などとはまた異つている。それにもまして、柱が中央に1列しかないので、構造的にどうまとまつているかという疑問が大きい。東西にかなり細長く連なること、それを境に南と北で旧地表に高低差のあるらしいことは注意すべきところで、この遺構が飛鳥川東岸のこの台地を南北に分割する何らかの役割をはたしていたのではないかとおもわれる。

第4図　南遺構南溝細部

B　西　建　物

さきの南方遺構の北西、飛鳥寺伽藍中心線の南への延長線に近く位置して、掘立柱で構成された東西1間南北8間の細長い建築遺構が検出された。建物の柱間は梁行桁行共に約3m、柱直径は約30cmをはかつた。

C　北　遺　構

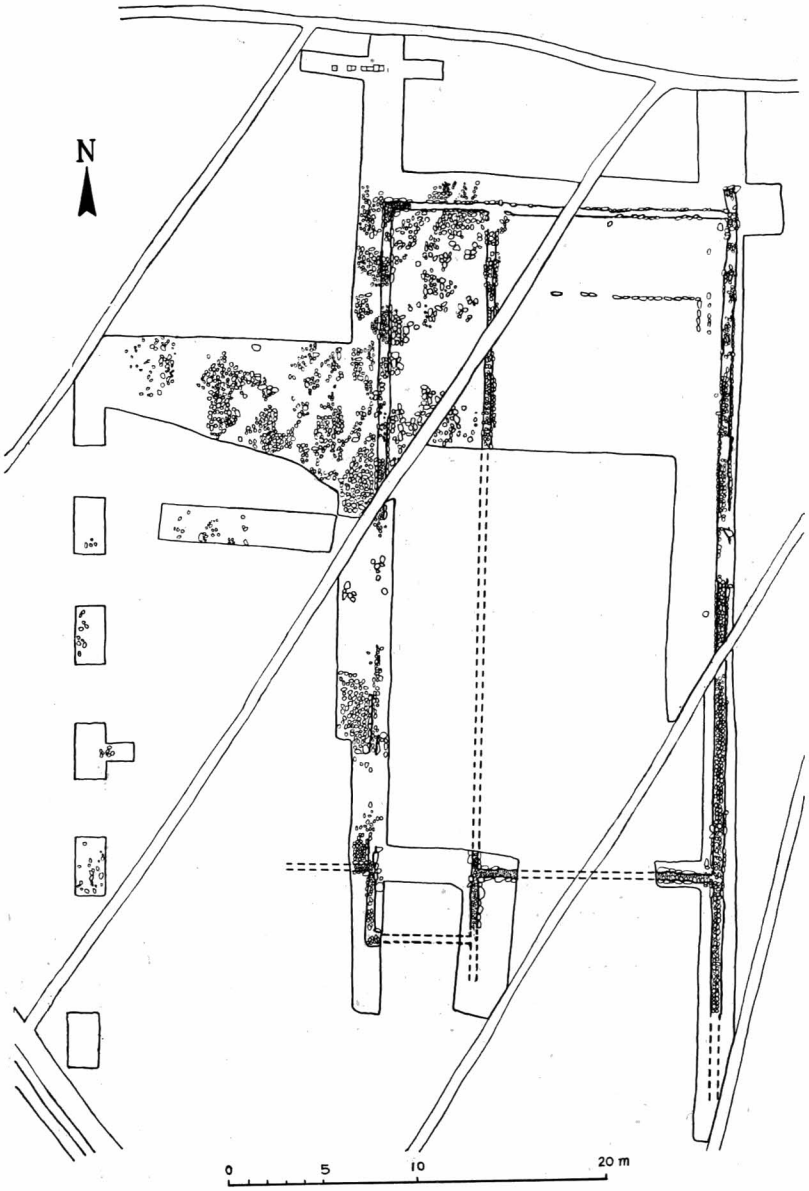
南方遺構の北約120mに北限のある北方遺構は、30cm内外の大きさ

第5図　西　遺　構　全　景

の玉石を敷きつめた東西約18m南北約40m の石敷部分と、その東の東西約13m南北約40m の礫を敷いた部分からなり、その両者を区画づける幅約 30cm の玉石造りの溝が南北に3条、東西に2条走っていた。

建造物の痕跡は、石敷・礫敷のいずれにも認められず、北に延長したトレンチに基壇盛土様の山土層を検出したから、この遺構は屋外の庭にあたる部分と推定されよう。遺構の南限は著しい湧水のため確認し得なかった。

以上の南、西北の3遺構は、その軸線がほぼ平行または直行してそれらが同一計画のもとに営なまれた可能性を示しており、その間に広い未発掘地域があることはこれらの発掘遺構が全計画の一部分にすぎないことを考えさせるのである。



第6図 北 遺 構 実 測 図

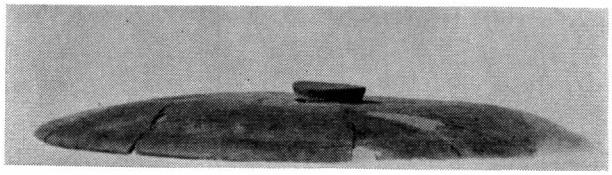
二 飛鳥板蓋宮との関連

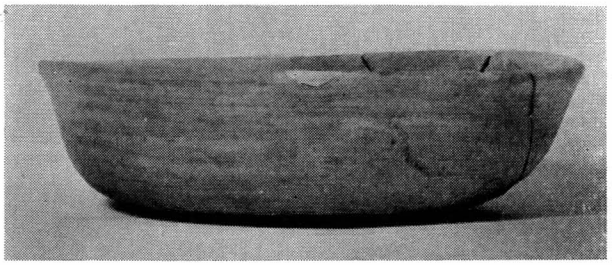
これらの遺構が造営される以前のこの地域の地形は、トレンチの知見により次のように推定される。すなわち、

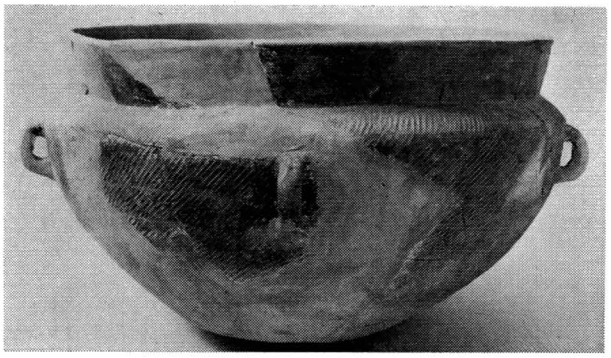
西方飛鳥川にそって南東から北西へのびる古墳時代後期の遺物包含層を有する台地があり、その北東の一帯は沼地となっていたらしい。この沼地を埋たてて現在のように平坦にされ、その上に以上述べたような大規模な遺構が造営されているのである。その営まれた時期はいつごろで、飛鳥板蓋宮との関係はどうなのであろうか。書紀の記載と現地の地形をあわせ考えて、この飛鳥川東岸の台地を板蓋宮の故地と推定する説を妥当なものと考えたが、今回の調査では、肯定否定いずれの結論をも引出すに足る資料は得られなかつた。しかし、南方遺構の溝中から発見された土器類は、現在の土器の編年的研究からすると、板蓋宮のものとするにはやや新しく、7世紀後半のものと考えられ、この点でこの遺構と板蓋宮との関係は否定されねばならない。しかし、今回の調査が限られたもので、多数の遺構群がなお地下に残されていることを考えるならば、この地域と飛鳥板蓋宮との関係について簡単に結論を下すわけにはいかないであろう。

（坪井清足）

第7図　北遺構細部







第8図　出土遺物
（上より）　土師器蓋　土師器坏　須恵器四耳壺